

R-1 : 国際専門委員会

開催日時・会場 9月18日(金曜日) 9:00-10:30 会場D

INORMS2021に向けての国際連携推進

世界に学ぶ国際研究マネジメント戦略 INORMS 2021 Hiroshima に向けて

2010年、科学技術・学術審議会委員会に於ける「研究開発に十分知見を持つ、優れた人材を、戦略的マネジメント等を行うリサーチ・アドミニストレーターとして確保・育成する」必要があるとの提言によって、我が国の研究マネジメント活動及び人材の確保・育成が本格的に開始されている。現在では、科学技術をあらゆる産業や社会生活に導入し、科学技術・イノベーションで創出される人間中心の「Society 5.0」の実現が、我が国の重要政策となっている。世界水準の研究力強化、すなわち研究水準向上とともに、資金の獲得や環境整備などの研究支援、さらには研究支援人材の育成が、科学技術の進歩にとって重要視されている。すなわち研究人材・資金・環境の三位一体改革の調和のとれた発展をマネジメントすることが、期待されているといえる。

さて、RA協議会年次大会も6年目を迎え、各セッションにおいて様々な議論が重ねられている。2018年には、世界的なアドミニストレータのコンソーシアムであるINORMSに加盟し、グローバルな活動を行っている。国際委員会では、昨年、海外の学会や財団から4名の有識者を招聘しセッションを行った。今回は、このINORMSの重要な活動の1つである、2年に一度の国際会議INORMS2020に関して英語にて議論を進めたが、今回のセッションではCOVID-19の影響で、2021年5月に延期したINORMS2021の最新情報を紹介すると共に、世界中のアドミニストレータが関心を持っているトピックを紹介する。また、特にアジア地域との交流拡大に向けた取り組みなども紹介する。昨年の国際セッションは英語で進めたが、今年度は日本語で紹介することとし、広く事務の方やアドミニストレーション活動初心者の方にも、世界のアドミニストレータの最新状況を把握してもらえセッションとして進める予定である。

セッション担当者

三宅 雅人：奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構
准教授 国際共同研究担当ディレクター



英国ケンブリッジ大学教員、国内の半導体装置メーカーから外資系半導体装置メーカーのテクニカルマーケティングマネージャー、新規技術分野推進室・室長を経て、2014年1月にURAとして本学に着任。その後、研究推進機構の准教授に、現在は国際共同研究担当ディレクターとして、国際共同研究推進並びに産官学連携・地域連携業務を行っており、2020年4月より戦略企画本部IRオフィスの兼務となり、大学の戦略立案に携わっている。

登壇者



Kate Harris: 東京大学 大学院理学系研究科
研究支援総括室
学術支援専門職員 (URA)

東京大学大学院理学系研究科・研究支援総括室URA。英国出身で、スイスのバーゼル大学で学位取得後、2011年に東京大学工学系研究科で博士研究員として来日。2014年より日本の学術英文校正の会社でシニア・エディターとして勤務。2017年6月より現職。2018年よりINORMS2021プログラム委員、INORMS Research Impact and Stakeholder Engagement WGに参加。



園部 太郎: 京都大学 学術研究支援室
リサーチアドミニストレーター (URA)
国際グループ サブリーダー

2004-2007年にタイ国キングモンクット工科大学トンブリ校エネルギー・環境大学院大学(Ph. D課程)在籍中に、京都大学21COE調査研究員としてアジア学術交流ネットワーク形成に従事。2007年より京都大学で研究員、特定助教を経て2012年より現職。現在は、京都大学ASEAN拠点、欧州拠点の駐在担当URAとして国際連携を担当。INORMS2021集客プロモーション戦略チームのリーダー。



三代川 典史: 広島大学 学術・社会連携室
学術・社会連携部 URA部門
シニア・リサーチ・アドミニストレーター

在東京オーストラリア大使館教育部勤務の後、修士号をロンドン大学(教育政策学)、シンガポール国立大学(公共政策)で獲得。米国ペンシルベニア州立大学でPh.D.(高等教育管理)を取得後、同大学グローバル事業本部で本部長付研究員として勤務。2014年より広島大学研究企画室に所属し、研究活動の国際化推進を担当。ライティング・センター、国際科学広報、国際会議開催支援等の運営を統括。INORMS2021実行委員会委員長。